



マイナビニュースから

時給2000円

- ・分給33円
- ・喫煙10分 = 1回330円



KOKUYO 「MANA-Bis」 サイトから

ニコチン依存症の喫煙者は、毎日何回もタバコを吸う時間が必要です。そんな人たちは仕事でもニコチン切れによるストレスを我慢できず、作業場を離れ喫煙場所に「タバコ休憩」を取りに行きます。仮に1回10分のタバコ休憩を5回とる人がいて、その人の時給が2000円だとすると左下図のように毎日1650円分の賃金が消えている計算になります。

時給2000円の人が1日8時間働いた場合の日給は16000円なので、その1割がタバコ休憩代になっているわけです。もし、この事業所にそんな喫煙者が10人いたとしたら、全体で毎日16500円がタバコ休憩に費やされている計算になり、これは一人分の賃金に相当します。

いかがでしょうか。就業時間中の喫煙時間が多くなれば、こんな損失が発生してしまいます。これは経営する側からみれば好ましくない状況です。だから近年、下表に示すような従業員や社員の喫煙を減らす取り組みを行う企業は増加しています。

「就業時間中の喫煙禁止」、「喫煙者は採用しない」、「禁煙治療に補助金を出す」などの取り組みが紹介されています。

社員の喫煙を減らす取り組み

味の素	22年までにグループ会社含め、約1万1千人を対象に就業時間の喫煙を禁止
ファイザー日本法人	19年度中に喫煙者ゼロを目指す。20年入社から喫煙者は採用しない方針
ロート製薬	「卒煙」できた従業員に社内食堂などで使えるコインを付与
ソフトバンク	20年4月から就業時間中を全面禁煙。外出中も対象
オリンパス	21年3月末までに全社の敷地内を全面禁煙
サントリーホールディングス	医療機関への禁煙外来を受診し、禁煙できれば治療費のうち1万円を会社が補助する仕組みを開始

タバコは喫煙者の健康を損なうだけではなく、企業や事業所の経営状態にも悪影響を与えます。そんな認識が社会全体に広がりつつある現代は、タバコを手にする時代ではなくなってきています。

産業デザイン科 奥田恭久

